

目次

口絵

「災害対応の地域研究」シリーズの刊行にあたって i

関連地図（アチエ州、バンダアチエ市とその周辺）／アチエ災害・紛争復興関連年表 iv

はじめに..... 1

アチエへ向けられるまなざし／本書のねらいと災害対応研究小史／アチエの地理と被害状況／アチエの民族構成

第一部 紛争下の被災——津波が解く「困い込み」

第1章 情報空白地域を襲う津波..... 31

1 旗に込めた思い——届かなかった津波知識 34

2 写真と張り紙——被害情報の収集 39

3 ツナミとイブナ——インドネシアの津波認識 45

4 モスクと文書——歴史・文化の被災 50

被災から
半年

第2章 統制を破る支援の波..... 59

1 監視下の支援——インドネシア政府・国軍 62

2 支援者の役割分担——コンソーシアムとポスコ 67

3 紛争地から被災地へ——戒厳令を解いた日本のNGO 74

4 情報共有と調整——アチエ・ニアス復興再建庁 81

被災から
半年

第3章 支援で生まれる秩序

87

- 1 代表を選ぶ——避難所 89

- 2 窓口を置く——ポスコと「三日ルール」 95

- 3 組んで働く——女性の生活再建支援 102

- 4 一緒に使う——農業加工機材の供与 110

第二部 復興再建期——世界と再び繋がるアチエ

第4章 被災地にあふれる笑顔

119

- 1 遊び心——対話の材料としての津波 122

- 2 食事と看板——世界の被災地アチエ 130

- 3 セミナーとお菓子——裏方で仕切る女たち 136

- 4 防災教育——被災者である前に教師として 141

被災から
1～2年

第5章 さまざまな弔い方

149

- 1 骸骨の丘——紛争下の弔い 151

- 2 集団埋葬地——墓標なき慰霊 157

- 3 再埋葬——埋めきれない思い 162

- 4 昇天の間——死者とともに生きる 168

被災から
1～3年

第6章 住宅再建とコミュニティ

177

- 1 復興住宅の見本市——ランバロスケップ村 179

2	海岸沿いの住宅再建——トルコ村	186
3	郊外の高台移転——中国村	190
4	近郊の埋立地——仏陀ツーチー村	194

被災から
2～4年

第三部 社会の復興——災害で生まれる新しい社会

第7章	亀裂の修復と社会の再生………	203
-----	----------------	-----

1	英雄の死——独立紛争への終止符	206
2	ボランティア——防災と「外助」	212
3	フィクション——国民的連帯の再生	219
4	公園と記念碑——世界への応答	226

被災から
5年目以降

第8章	津波の経験を伝える………	237
-----	--------------	-----

1	学術交流——「メッカのベランダ」から防災学の拠点へ	239
2	防災学専攻——インドネシアの大学院で二校目	245
3	物語——タイプライター・プロジェクト	252
	ツナミ（アミルッディン・マナフ著）	260

被災から
7年目以降

第9章	津波のうねり………	263
-----	-----------	-----

1	内陸地震への支援——州内格差の解消に向けて	266
2	行政改革とイスラム——特別自治州のジレンマ	273
3	カフェとヘルメット——違いがわかる楽しみ	280
4	津波後世代の誕生——マルチメディアを体現する人々	284

被災から
8年目以降

おわりに.....291

「思いのほか明るい表情」をどう理解するか／社会の復興と個人の復興／よりよい社会を目指して——災害復興を通じた社会の課題への取り組み

コラム 1 アチエの女性たち 58

コラム 2 旗とカーレース 116

コラム 3 アンワルおじさん 198

コラム 4 会議と観光は続く 236

参考文献 306

あとがき 317

索引 328